



NPO 法人チャリティーサンタ
Charity Santa

サンタ新聞・別冊

ルドルフ基金 実績レポート 2021

2021.06～2022.05



ルドルフ基金活動実績報告

「ルドルフ基金プロジェクト」は、2008年より行っている通常のサンタクロース訪問などによって集めた寄付金で、厳しい環境の中にある子ども達（生活困窮家庭、病気を抱える家庭、被災家庭の子ども達）へ様々な体験や思い出を届ける取り組みです。2015年度より本格的にスタートし、2021年度で7年目のプロジェクトとなります。昨年度と引き続き、新型コロナウイルスへの対策について、検討を重ねながら全国で活動を行い、様々な環境にいる子どもたちへ思い出を届けることができました。またクリスマス以外での困窮家庭の支援のシーンも増えます。今回のレポートでは特にクリスマス活動を通じた家庭の様子やブックサンタを通じての家庭の支援の状況などをお伝えします。

企業との連携

全国の書店と連携し、支援家庭に寄付の本をプレゼントする取り組み「ブックサンタ」は今年で5年目になりました。新たにイオングループの未来屋書店などが協力書店として加わり、42都道府県461店舗で約2か月間にわたって実施しました。結果として、35,162冊の本が寄付として集まりました。これらの本を活用し、クリスマスにはたくさん子ども達へ本との出会いをプレゼントすることができました。また、一部のエリアでは、厳しい環境にいる子ども達の誕生日のお祝いとしても、これらの本を活用しました。今後、年間を通じた体験の応援ができるよう、クリスマスだけではないハレの日のお祝いの取り組みを全国的に拡大できればと思っています。



収支報告などはチャリティーサンタ全体の報告書「サンタ新聞」や「事業報告書」「活動計算書」にて報告しております。そちらでご参照お願いいたします。

https://www.charity-santa.com/about/performance_reporting/

クリスマス時期の困窮家庭支援

訪問家庭：607家庭
訪問先の子ども：949人
施設などの訪問数：29件
施設などの子ども数：698人
郵送（サンタからの手紙）による支援：1,022家庭
困窮家庭支援団体との連携を通じての本の支援：25,101冊

団体との連携

より多くのエリアの子ども達に思い出を届けるために、全国で子ども達の支援をしている団体さんとの連携も実施しました。継続して連携している団体に加え、新規に連携する団体も公募し、合計121の団体に子ども達に向けたプレゼントとして寄付の本を提供しました。今回連携した団体のうち、2つの団体にインタビューを行い、活動に対する思いなどを伺いましたので、そちらもぜひご参照ください



行政との連携

チャリティーサンタでは、2020年度から岡山市こども福祉課との協働により、「岡山市市民協働推進事業」として生活困窮家庭への体験支援について取り組んでまいりました。この取り組みでは、行政・NPO・企業が連携し、自分たちのできることや資源を提供することで、厳しい環境にある子ども達の体験を支えようというものになり、2021年度までの2年間で多くの企画を生み出すことができました。2021年度は、それらの取り組みについての報告書も作成しました。



貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消に向けた行政×NPO×企業の連携・支援ネットワーク構築事業

子どもの様子 ～どんな子に届いているのか?～

サンタが届けてくれた優しさのバトン

シングルマザーとしてフルタイムで働きながら娘さんを育てているお母さん。色んな事を娘さんに我慢をさせていると感じているそうです。毎日の慌ただしい生活の中でも、「ママ大好き」と言ってくれている娘さんに、「サンタさんの力を明かりて何かしてあげたい、いつも頑張っている娘にサンタさんからのご褒美があれば報われた気持ちになるのでは」という思いから、チャリティーサンタの企画へ応募してくれました。

母子家庭でいつも忙しく頑張っている娘に何か素敵な思い出をと思い応募し幸運なことにそのチャンスをいただくことができました。



当日は、祖父母も家に招待して食事会中。ピンポンとインターホンがなったらかわいいサンタの洋服を着たお姉さんが2人「お届け物です」と。キョトンとした様子で手渡された手紙を言われるがまま読んで、頭がついていない様子でサンタさん呼び、登場!娘は「何が起こってるの?」という感じでサンタさんとお話しておりました。サンタさん優しい口調にびっくりしながらも淡々と受け答えする娘。たぶんすごいびっくりしてるんだと思います。シャイな子なのであまり大はしゃぎするタイプではないですがサンタさんから伝えられる頑張っていること、これから頑張してほしいことを頷きながら笑顔になりながらきいておりました。サンタさんが帰った後に実感が湧いたのか、私が感動して泣いてしまったこともあり娘も「嬉しすぎて涙が出る」と号泣しておりました笑 その後はいただいた本を早速よみ、寝る間際には「学校の子はいないって言ってたけど、サンタさんって本当にいるんだね」と真顔でいっていました。皆さまのご厚意で、絶対に忘れることのない思い出が作れました。本当にありがとうございます。私にはこのような素晴らしいサプライズをしてあげることができないので本当に皆様の優しさ感謝します。娘にもいつか本当のことを話す日がきたら皆様の優しさを伝え、同じように人に優しくする様に伝えたいとおもいます。優しさのバトンです。本当にありがとうございました。

サンタさん効果でテストもばっちり!

平日はフルタイムで働いている中、娘さんに寂しい思いをさせていると感じているお母さん。5歳になり、色々分かってくる年齢になってきたので、特別な日を楽しませたいと応募してくれました。

インターフォンになって、画面を見たときの娘の驚く顔が忘れられません(笑)娘は、とてもシャイで、当日は自分からサンタさんにお話ができず、問いかけられてもうまく話せませんでした。母親の私からみると、内心とても喜んでいました。あとから話を聞いたところ、恥ずかしくて緊張していたそうです。サンタさんは、反応のない娘に困ったと



思うのですが、たくさん笑顔で話しかけてくれて、嬉しかったです。表現下手ですが、家族だけになったら、「サンタさんすごかったねー!!」「なんでスイミングのこと知っとるんやろ」と饒舌に話し、絵本を抱きしめていました。翌日も、会った友達に、いただいた絵本の話をして、とてもいいお話でいい絵本をくれたと伝えていました。また、サンタさんに応援してもらったスイミングのテストも、翌日一発合格できました!サンタさん効果、抜群です。



子どもの様子 ~どんな子に届いているのか?~

私にとっての本物のサンタさん

こちらのご家庭は、サンタを呼ぶことを一度キャンセルしようかと悩んだご家庭です。このご家庭については、裏側にいるボランティアの声も一緒にご紹介します。

訪問後の家庭の声

発達障害の8歳の息子です。毎日痲痺や暴れたりで、大変です。アンケートで「褒めて欲しいところ」の欄を埋めようとしたけど、どんなに考えてもひとつも出てこず、ショックでした。毎日大変で、もうプレゼントのおもちゃも買わないと決め、もうサンタさんはキャンセルしようと思ひ、事情を書いてメールしました。すると、「いつでもキャンセルできますから、サンタさん呼びませんか?」と、言って下さり、続行することにしました。クーポンを使っての利用、本のプレゼントがあるとの事でした。子ども自身は、「僕はいい子じゃなかったから、サンタさんが来ても絵本があればいいかな」などと自分に言い聞かせていました。

当日、サポートの女性の方が2名やってきまし



た!息子は、恥ずかしがって私の後ろに隠れてしまいましたが、サンタさんと呼ぶ時はサポートの方と一緒に「サンタさ?ん!!」

と、大きな声で呼んでくれました!サンタさん登場!!よく考えたら、変装しているだけのはずなのに、空気がパッと変わり、玄関がとても神聖な雰囲気となり、なんとも言えない空間に私自身も溶け込んでしまいました。サンタさんは、「1年間いい子にしてたからプレゼントを持ってきたんじゃ」と言って、本とお菓子(私が用意したもの)を息子に渡し、沢山頭を撫でてくれました。そして、ピアノを頑張ってることをほめてくれ、お片付けを頑張るように伝えてくれました。何度も何度も頭を撫でてくれ、子供は下を向きつつうなづいてました。なぜ下を向いてたかと言うと、おもちゃのような大きな箱のプレゼントがなかったからです(笑)息子はお話を聞きながら、プレゼント用の白くて大きな袋を恨めしそうに何度もつまんだり触ったりしていました。サンタさんは小声で、「(プレゼント)間違っただけのう…」気を使わせてすみませんでした!でも、サンタさんとお別れしたあと、リビングにサッと戻って、本を開けて、嬉しそうに笑顔でほんの中身を見ていましたよ!

とても感動したのが、サンタさんが私の方を真っ直ぐに見てくれ、「お母さんもよく頑張ってるの、大丈夫じゃからのう…」と、励ましてくれました。

若い男の子に励まされていると言えばそうなんですけど、私には本物のサンタさんに見えました。涙が出そうになりました。「あー、子供もこんなふうにサンタさんを感じているんだな…」と私も久しぶりにサンタさんを信じていた頃に戻りました。今年も、親子でほんとにいい経験をさせてもらい、素敵なクリスマスとなりました。本当にありがとうございました。

来年もまた参加させてください。よろしくお願ひします。

対応したボランティアの声

クリスマスイブ直前、準備も一段落したところ、1通のメールが届きました。「子どもが全く良い子ではないため、今年はサンタさんに来てもらうのをキャンセルしようかと迷っています。こんな子にサンタを呼ぶなら、他にも呼びたい方が沢山いるのではないですか?」

シングルマザーとして発達障がいのあるお子さんの育児に奮闘しているお母さんからの「サンタを呼びたいけど呼びたくない」という苦しい葛藤が綴られたメールでした。私はとても驚き、とてもショックを受けました。なぜなら、そのお母さんがお子さんのことを想ひ、毎年欠かさずサンタさんと呼んでいたことを知っていたからです。そしてこのご家庭は、私自身が初めてサンタとなり訪問し、感動をもらった思い入れのあるご家族だったのです。私がサンタクロースとして訪問した時、対面したご家族の声や笑顔がとても明るく素敵で、訪問からの帰り道に歩きながら涙が出るくらい嬉しくなりました。いつまでも忘れることのできない、大切な思い出です。このお母さんの依頼があったからこそ、私はサンタクロースになる事ができました。「自分のところに来るくらいなら…なんて言わないで欲しい。クリスマスにお子さんに思い出を届けたいと思っている、お母さんのその温かい気持ちに寄り添いたい。」と強く思いました。そして、お母さんにもサンタさんの訪問を楽しんでもらいたいと思いました。

運営スタッフで何度も何度も話し合った末、「キャンセルするのはいつでもできますから、もう少し待ってみませんか?」とお母さんへ声をかけさせていただきました。すると、葛藤していたお母さんから「サンタさんに希望を託していいですか?子供はとても楽しみにしています」と返ってきました。

そしてイブ当日、サンタさんは見事に訪問を

終えてくれました。訪問後のアンケートでは、お子さんだけでなくお母さんにも思い出を届けられたことが分かるような内容が書かれていました。お母さんから最初のメールがきたとき、とても驚きショックを受けましたが、どうしたらお母さんの温かい気持ちに寄り添うことができるのかを考え、今年も思い出を届けることができて、本当によかったと思います。



連携団体インタビュー

昨年ブックサンタの本の提供先として連携した団体さんよりお話を伺いました。それぞれの活動への思いやブックサンタのエピソードについて教えていただきました。

☞ 団体の活動内容について教えてください。

1987年に笠岡子ども劇場として活動を始めました。家庭の中で何か困りごとがあったときは、行政やNPOをはじめとした地域の様々な人たちが助けしてくれるという【安心感】を提供したいと思い、活動をしています。

2016年からのちまるごとプロジェクト事業を始めました。【食べる】【学ぶ】【暮らす】という人が生きていくために必要な3つの柱で組み立て、食料配布や学習支援など様々な活動に取り組んでいます。例えば学習については、タブレット学習に向けてのWi-Fi環境の整備や学習のつまずきの早期解決（オンライン上での動画の支援）など、一人ひとりのニーズに合わせたサポートにも力を入れています。

貧困は、単一的な支援だけでは解決できません。貧困という個人の課題を、社会全体が課題としてとらえ、解決に向けて取り組んでいける仕組みを作っていきたいです。



クリスマス時期のフードバンクを活用した食品・日用品のフードパントリーでプレゼントとして届けられました。



☞ 新型コロナウイルスの影響で大変なことはありますか。

大きなこととしては、体験活動に制限がかかっていることです。体験の格差が積み重なることによって、その子の人生に大きな格差が出てしまうことを、とても懸念しています。新型コロナウイルスの影響による減収で困窮家庭では日常の体験活動にも影響が出ていると実感しています。誕生日会などの生まれてきてくれてありがとうを感じる機会、自己肯定感を育む機会が減ることがコロナの弊害としてありますね。

☞ ブックサンタに参加しようと思ったきっかけはなんですか。

他の支援団体からの紹介を受けました。このようなつながりができたことをうれしく思っています。私たちも新品の本がこんなにたくさん届くのかとびっくりするとともに、お渡ししたご家庭の喜びの瞬間に立ち合えてよかったです。

☞ ブックサンタのエピソードを教えてください。

新品の本なので、「自分の

認定NPO法人 ハーモニーネット未来さん

担当者：団体理事 宇野均恵様、増岡衣里様

ためだけの本として喜んでいきます」という声を、たくさんいただいています。また、スタッフが本を選定しプレゼントしたご家庭から、「子どもがこんなに絵本を喜ぶと思っていなかったのですが、何回も何回も絵本を子どもたちが本を読んでくれていてとても驚いています。本当にありがとうございます」というメッセージをいただいて、幸せな気持ちになりました。

さらに先日、当団体を利用したシングルのお父さんに、お子さんの誕生日プレゼントという形で本をお渡しすることができました。そのお父さんは、朝から夜まで働いているが、育児にかかる費用で生活が精一ため、子どもに「今年は誕生日プレゼントをどうしても買ってあげられない、ごめんね。来年は用意するからね。」と伝えたと話してくれました。その時、チャリティーサンタさんからいただいた本のことを思い出して、ラッピングやメッセージカードをつけてプレゼントしました。お父さんが選んだ絵本を、大好きな子どもさんにお渡しするサポートができ、とてもほっこりとした気持ちになりました。寄付の本があったことで、最高の形で私たちのやりたいことができ、本当にうれしく思っています。

☞ 今回の活動を通してサンタクロースをどのような存在だと感じましたか。

子どもたちを見守っている存在だと思いました。目に見えない安心感や守られている感じをずっと届けてほしいなと思っています。サンタさんは世界中のどの子にも来る存在で

あってほしいと思っています。家庭環境にかかわらず、幸せをみんなに与えてほしいです。さらに、サンタさんと子どもたちがつながることによって、人の繋がりもできたらうれしいなと思っています。



編集後記

今回の団体へのインタビューはチャリティーサンタに所属する学生インターンが取り組んでくれました。学生のメッセージを紹介させていただきます。

インターンシップの感想

今回のインタビューを通して、私は誰かを思う安心感について深く考えることができました。子どもたちが笑顔になるためには？親御さんがふとした瞬間に頼れる団体になるためには？といったいつも誰かを思って行動されている姿に、人との繋がりを感ずることが出来ました。私も誰かを思う気持ちを改めて思い出したので、チャリティーサンタの活動を今まで以上に頑張っていきたいです。

読者皆様へのメッセージ

【あなたも誰かのサンタクロース】という合言葉が当団体にありますが、この冊子を読んで下さる皆さんもきっと、サンタクロースのように温かい心を持っていると思います。この冊子を読んで少しでも、幸せや笑顔の連鎖を作りたいなと思ってくださったらすごく嬉しいです。

荻田夏海



連携団体インタビュー

昨年ブックサンタの本の提供先として連携した団体さんよりお話を伺いました。
それぞれの活動への思いやブックサンタのエピソードについて教えていただきました。

認定 NPO 法人 スマイルオブキッズさん

担当者:事務局長 谷畑育子様

📖 団体の活動内容について教えてください。

病気や障害のあるお子さんと、そのご家族やきょうだい児の支援を行っています。主に①患者家族滞在施設リラのいえの運営、②きょうだい児保育、③家族の交流の場の提供をしています。病気のお子さんやその家族はすごく大変な状況にありますが、周囲に認知されにくいです。ご家族を支える事で、お子さんたちが笑顔になってくれたらいいなと思います。

📖 新型コロナウイルスの影響で大変なことはありますか。

リラのいえは遠方からの利用者も多いのですが、初回の緊急事態宣言の時には県をまたいで治療に来る事ができなくなりました。通常時は11部屋あるうちの約半分が埋まっていますが、ひと家族だけという状況が続きました。また、リラのいえは多くのボランティアさんによって活動を支えられていますが、移動を制限している中で来てもらう事に葛藤

がありました。しかし、ひと家族でも必要としているのであれば、閉めるわけにはいかないと考え、最低限のスタッフ4人だけで対応を続けていました。きょうだい児保育については、現在も保護者以外は病院内に入れられないため、利用が増え続けています。

📖 ブックサンタに参加しようと思ったきっかけはなんですか。

認定 NPO 法人ファミリーハウスさんから、3、4年前に紹介メールがきて、それから毎年参加しています。個人家庭へのサンタ訪問も、利用者で当選した方がいます。そのご家族は病気のお子さんが、当時1~2歳の小さな赤ちゃんでした。当選した時も入院中だったのですが、頑張って呼吸器をつけて1日だけ退院して、クリスマスの楽しい時間を過ごせたようです。その後亡くなったとご連絡をいただいたのですが、サンタ訪問によって良い時間を過ごせたと聞いています。

📖 ブックサンタのエピソードを教えてください。

リラのいえ滞在時やきょうだい児保育の際に、保護者やお子さんが選べる形で、本をプレゼントしています。リラのいえではクリスマスツリーの根元に、サンタさんが持ってきてくれたイメージで置いています。他団体や寄付者の方が、利用者のことを気にかけて、応援してくれることが嬉しいと、皆さんおっしゃっています。きょうだい児保育では、きょうだいさんが自分用に選んだり、保護者が患者のお子さんに選んだりしています。本は、自分た

ちが読んでいたものも新しいものもあって、大人が見てもワクワクします。一冊の本を通して楽しい時間を家族で過ごせる事は、日々余裕のない保護者にとって嬉しい事です。また、新品という事も喜ばれる点です。本は高価なので、プレゼントしてもらえて本当に嬉しいという声があります。

📖 クリスマスなどのイベントの機会を患者さんやご家族、ごきょうだいはどのように捉えていますか。

イベントはとても大事です。私は元々患者家族で、10年前に子どもを小児がんで亡くしています。発見できた時点でもう余命を告げられる病気でした。本当に悲しかったですが、今できることをやらなきゃという気持ちにすごくなりました。イベント1つ1つが大切なものに思え、普通の日常がありがたいものだと気づき、今できるだけ楽しい事をしようと過ごしました。今でもやってよかったと思うし、最後のイベントになったけど、楽しくできてよかったという記憶がすごく残っています。その経験から、病気のお子さんや家族にとって、イベントは、より大事なものになっていると思います。チャリティーサンタさんの活動は、生活にこういう彩りがある事を思い出させてもらうきっかけになっているのではないかと思います。

📖 最後に、活動の中で大切にされてることを教えてください。

利用者さんの立場に立つことです。当事者として、色んな人が自分のことも気にかけているというのがすごく嬉しかったので、「頑張っている家族のことを見てるよ」という

気持ちを忘れず、応援したいと思っています。考えなきゃいけないこともたくさんあるんですが、それを一旦忘れて、同じ立場のご家族と交流できて、後押ししてくれる人がいっぱいいるのがリラのいえです。この場を継続していくことができたらいいなと思います。

<注釈>
※きょうだい児：病気や障害を持ったこども（患児）の兄弟姉妹のこと。こどもでありながら、自分ひとりでの行動や患児のケアをも求められることなどから支援の必要があると考えられている存在。

編集後記

今回の団体へのインタビューはチャリティーサンタに所属する学生インターンが取り組んでくれました。学生のメッセージを紹介させていただきます。

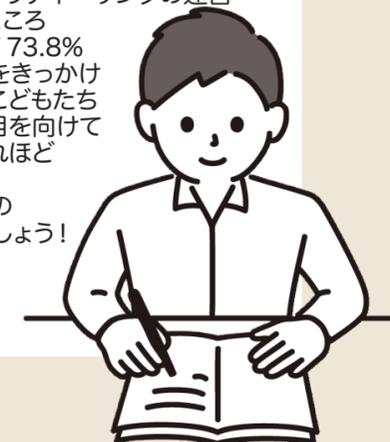
インターンシップの感想

クリスマス前、支部のメンバーと一緒にブックサンタで贈る本を選びに行きました。みんなで童心に帰ったその時間は忘れられない思い出となりました。今回のインターンでは、本を選んだその向こう側を見ることができました。僕たちに心温まる時間をくれた一冊が、今度はこどもたちやご家族の心を温める大切な一冊になっていることを伺い、今後の活動への思いを強くしました。

読者皆様へのメッセージ

きょうだい児についてチャリティーサンタの運営スタッフ61人に聞いたところ「知らない」という回答が73.8%でした。今回のレポートをきっかけとして病気や障害をもつこどもたちやきょうだい児の支援に目を向けてくださる方が増えればこれほど嬉しいことはありません。ぜひ一緒にルドルフ基金の支援の輪を広げていきましょう!

田部井優真



リラのいえきょうだい児保育を利用されたご家族にプレゼント致しました。神奈川県立こども医療センターで治療を受けるお子さんの、兄弟姉妹をお預かりする保育室です。「素敵な絵本をありがとうございました。子どもと一緒に読みます。」



困難の中にある子ども達に特別な思い出を

あなたもサンタクロースになれる3つの方法

クリスマスは誰もが知っている特別な日です。「誰もが知っている日」だからこそ、様々な人が関心をもつ・行動できるきっかけとなります。一般市民のボランティア、企業や資源を持つ団体と連携を通しながら、地域社会と「地域の見えにくいところで困っている子どもたち」

「がつながっていける仕組みをつくること」これが私たちのできることなのではないかと考えています。どんな環境にいても、すべての子どもたちが笑顔になれる1日めざし、チャリティーサンタがみなさんと一緒に始められる3つの方法をご紹介します。

1 サンタクロースになる

現在、サンタクロースの希望に対し、なり手（ボランティア）が不足をしています。サンタクロースが増えれば、思い出を届ける先の子も達も増えます。全国の支部であなたのサンタクロースの参加をお待ちしています。

2 寄付に参加する

ルドルフ基金の取り組みを通じ、子どもたちの思い出を届けるための準備・仕組みづくりやプレゼントに使用させていただきます。皆様の思いを形にし、子どもたちにサンタクロースを届けます。

3 団体・企業連携

私たちだけでは思い出を届けられない子ども達がまだまだたくさんいます。家庭への広報の協力や体験の場を一緒につくることなど、様々な連携をお待ちしております。

活動報告は
こちらを
ご覧ください



あなたもサンタクロースになりませんか？

チャリティーサンタ「ルドルフ基金」の取組では、趣旨に賛同する企業・支援団体・ボランティア・寄付者の皆様の参加をお待ちしております。お気軽にご連絡ください。

問い合わせ（「ルドルフ基金」事務局）
ウェブサイト
ルドルフ基金の取り組みについて

rudolph@charity-santa.com
https://www.charity-santa.com
https://rudolph.charity-santa.com

団体概要

団体名称：NPO法人 チャリティーサンタ / 代表：清輔 夏輝

活動地域：30都道府県42支部

札幌、美瑛、秋田、盛岡、仙台、女川、甲府、新潟、上越、群馬、つくば、さいたま、千葉、我孫子、北東京、南東京、文京、世田谷・明治大学、多摩、横浜、湘南、相模、静岡、浜松、名古屋、三重、大阪、神戸、奈良、岡山、津山、広島、愛媛、香川、福岡、北九州、佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
※倉吉市社会福祉協議会(鳥取県)とパートナー連携をしています

事務局：東京都千代田区飯田橋一丁目8番9号 ニューシティハイツ飯田橋707

問い合わせ：050-3586-0859

連絡先：info@corp.charity-santa.com

※各支部へのお問い合わせは、公式HPより
(チャリティーサンタで検索)

チャリティーサンタ 検索

公式Facebook 公式Twitter

